

離島特集にあたって

著者	永野 秀雄
出版者	法政大学人間環境学会
雑誌名	人間環境論集
巻	12
号	1
ページ	1-3
発行年	2012-02
URL	http://hdl.handle.net/10114/7457

離島特集にあたって

永野 秀雄

この人間環境論集第12巻1号では、離島に関する特集を組み、その分野を代表する先生方に執筆して頂いた。

これらの論考のうち、離島全体の振興及び現状を考察した論考として、①城西国際大学観光学部・阿比留勝利教授による「離島振興総論—これからの離島振興を考える」、②財団法人日本離島センター・水昭仁調査第二課長による「離島における生活環境—ライフラインの現況より—」、③政策研究大学院大学・小松正之教授による「離島における経済的環境—離島の産業論Ⅰ—水産業」を掲載した。

また、これに続く個々の離島に関する論考として、④海の博物館・石原義剛館長による「答志島—伝統を生かしながら新しくなる島—」、⑤土屋久講師による「大崎下島御手洗の生活世界—ある船大工からの聞き書き—」、そして最後に、⑥財団法人日本離島センター・三木剛志広報課長兼調査課長による「長崎県池島における炭鉱開発と住民の対応」を掲載している。

そもそも、本号の離島特集のきっかけとなったのは、本学部の人間環境セミナーとして、2011年前期に「離島講座」を開催したことにある。このような離島に関する総合的な講座は、おそらく大学レベルとしての講座としては初めてのことであったと思われる。この離島講座を担当頂いた先生方に深く感謝するとともに、その記録的な意味から、ここにその概要を記しておきたい。講義は、いずれも、外濠校舎S205教室において、13:30～15:00に行われた。

まず、東日本大震災の影響により、法政大学における前期授業の開始が通常

より遅れたために、最初の3回の講座は、通常の授業ではなく出席を要件としない「特別セミナー」として開催された。その概要は、以下のとおりである。

第1回（4月16日）

（財）日本離島センター・三木剛志課長

「離島概論1：離島とは何かーその多面的機能」

第2回（4月23日）

（財）漁港漁場漁村技術研究所第1調査研究部・中村隆部長

「離島概論2：離島における分野ごとの現状・課題」

第3回（4月30日）

（財）日本離島センター・水昭仁課長

「離島概論3：離島のライフラインー航路航空路、医療、福祉、教育、IT、消費生活、安全安心」

この特別セミナーに続き、大学の授業が開始されたことで、2011年度前期人間環境セミナー「離島講座」を開催した。講義の概要は、以下のとおりである。

第1回（5月7日）

東海大学海洋学部海洋文明学科・山田吉彦教授

「離島における地政学的環境ー離島が狙われるのは何故」

第2回（5月14日）

島根県隠岐郡海士町・山内道雄町長

「離島における自治体経営環境：離島活性化ー島おこしのいま」

第3回（5月21日）

松蔭大学観光文化学部・古賀学教授

「離島の産業論1ー観光業」

第4回（5月28日）

海の博物館・石原義剛館長

「離島における生活文化」

第5回（6月4日）

政策研究大学院大学・小松正之教授

「離島の産業論2ー水産業」

第6回（6月11日）

共立女子大学・土屋久講師

「離島の子神文化の多様性」

第7回（6月18日）

東北芸術工科大学芸術学部文芸学科・斎藤潤教授

「離島の芸術、芸能、文化等の多様性」

第8回（6月25日）

総合地球環境学研究所研究部・湯本貴和教授

「離島の生物多様性」

第9回（7月2日）

城西国際大学観光学部・阿比留勝利教授

「離島振興総論—離島とは日本国そのもの」

第10回（7月9日）

中部大学国際関係学部国際関係学科・加々美康彦准教授

「離島と海洋論」

第11回（7月16日）

文教大学国際学部国際学科・海津ゆりえ准教授

「離島におけるエコツーリズム」

このようなすばらしい離島講座のカリキュラムを組めたのは、（財）日本離島センターのご助力を得たことが大きい。同財団の高野宏一郎理事長（新潟県佐渡市長）、渡邊東専務理事をはじめとする同財団の方々に大変お世話になった。学部を代表して、心からお礼を申し上げます。